



～あふれ出る湧き水と瑠璃色の水辺の町～

針江・霜降



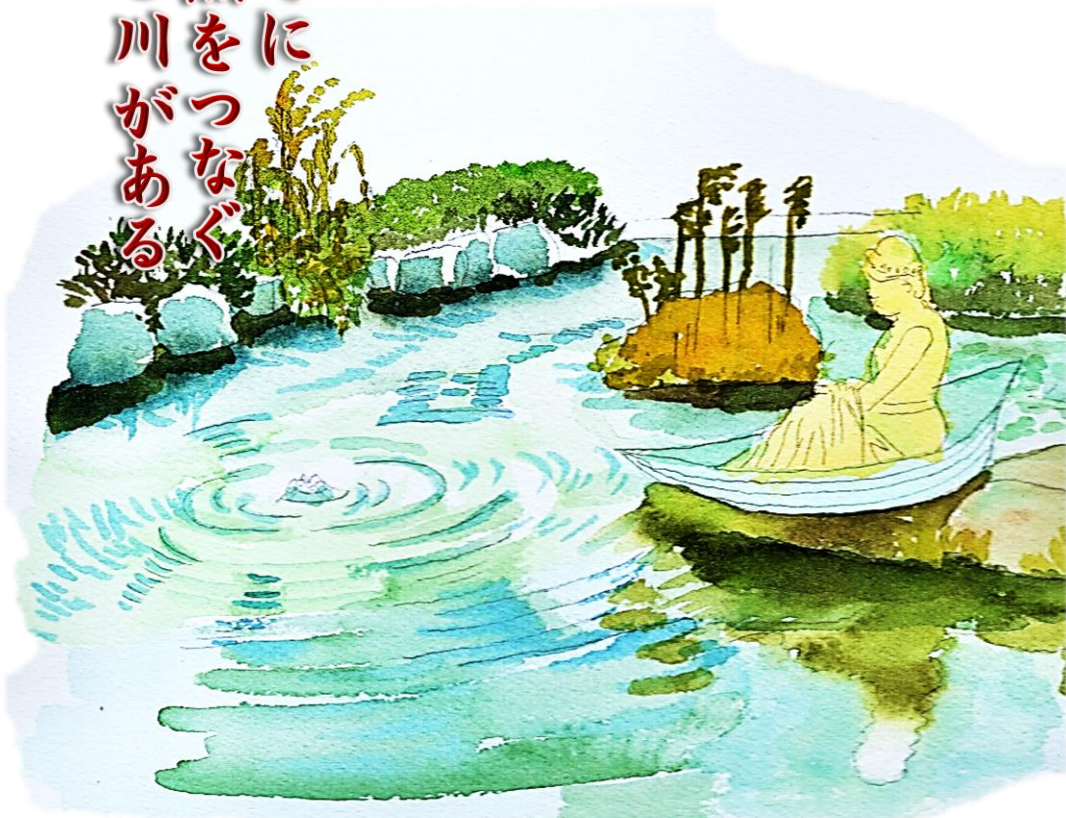
はりっしも
Harishimo vol.16 2023 (令和5年) 3

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会

Message

針江・霜降地域は国の「日本遺産」・「重要文化的景観」の選定を受けています。

湧き水と自然の町に
小さな川をつなぐ
川がある

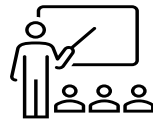


霊鷲山 正伝寺 亀の池

■重要文化的景観「高島市針江・霜降の水辺景観」の重要な構成要素「亀の池」。そのいわれが、正伝寺に伝わる御縁起に記されています。伝教大師が三体の薬師仏を作り、一尊は叡山中堂に、二尊は湖に…。その一尊が霊亀に乗って平澤の池（亀の池）より上られたと。

御縁起
抑々壇上厨子内安置
三奉の薬師如来の尊像八
ツモ傳教大師御作り其
甲来ヲ尋子奉ニ日本三薬師
佛一尊ヲ傳教大師或時三
体御佛ヲ作り奉ニ摺願ヲ
立ツヤシト時ニ松尾大明神御
告ケヨリ叡山八部尾下ニ於テ
一ツ霊木ヲ得玉ク不思議ニ哉
青鬼黄鬼ニ鬼神則霊薬
ヲ守護シ大師告ク此霊
木ヲ以テ三体御佛ヲ作り末世
ノ衆生ヲ救ハセ玉ト言ヒ子ノ鬼

令和4年度事業活動報告



三つの調査事業を進めています

「針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会」

★かばた
★河川
★民俗文化財

■令和4年度から新たに文化庁及び高島市の支援を受けて、カバタ調査、河川調査、民俗文化財調査、3つの調査事業を進めています。当地域でも少しずつ空き家が出てきたり、少子高齢化が進み、にぎやかな昭和から平成のはじめの頃とは、ずいぶん様子が変わってきました。

かばた、河川、民俗文化財も、かろうじて一昔前のかたちが残っていますが、家を建て替える時にかばたを無くされたり、美しい石垣の川がまっすぐなコンクリートで固められたり、水辺のお地蔵さんが失われたりと、その使われ方や水との接し方は大きく変わってきています。

■今年度は、これまでの大学や研究機関、有識者の調査をふまえながら、協議会役員自ら歩き、自分たちの目で調査を進めています。子どもの頃からの断片的な記憶をつなぎ合わせる場面もあり、すっかり変わってしまっていること、今も変わらずに残っていること、一つひとつに新鮮な驚きがあります。そして、地域の水系の成り立ちを把握し、水を巧く利してきた先人の知恵を垣間見る機会となり、期待以上の価値があるように思います。

かばた・湧水の活用、河川水質や生態の計測観察データなど、各調査のまとめはまだ先になりますが、継続的に調査を行い、貴重な湧水環境と「水と生きる」暮らしを守り継承していきたいと考えています。各調査について皆様のご協力をあらためてお願い申し上げます。

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会
会長 足立 亨

川に関心を持って接しているおかげ

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会 副会長
針江区长 北野 俊朗



■高島市内では重要文化的景観保存地区が3か所あります。「海津・西浜・知内の水辺景観」、「大溝の水辺景観」と「針江・霜降の水辺景観」です。海津地区では石積みと街並みを活用して観光の資源として集客を図ろうとしており、大溝地区においても同様に街並みを活用して観光客の招致を図って地域の活性化を図ろうとしています。当地区の取り組みは古くからある湧水や水資源を守って行こうという取り組みを行っています。

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会では、令和4年度より地区内のカバタや河川の調査を実施しており、調査結果をお知らせするまでにはまだ時間がかかるようですが、針江大川・小池川は以前より藻の繁茂状況が早いように思いますし、また国道161号線(バイパス)より下流においては状況が一変して、年明け以降半年ほどは藻が全くない状態となる事が毎年のようにみられるようになりました。

防災面では気候の変化により突然の大雨に見舞われる事が何度かありますが、毎年4回の川掃除を実施しているおかげで、針江大川・小池川が氾濫するような事がないのも皆さんが川に関心を持って接しているおかげだと思っております。環境を壊すのは簡単な事ですが、一度壊れると二度と元の状態に戻りません。今ある環境を大切に守っていききたいものです。



「お地蔵さん」と「水の神様」に感謝!

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会 副会長
霜降区长 海東 弘



■霜降区には、石垣、川底から自然に湧く「水」が豊富です。特に中ずしという私の家の近くの川は、どこからともなく湧いて大きな川となり本流へ勢いよく流れています。小学生の頃は、母親が洗濯物をすすぎに行っていたことを思い出します。この川の中や側のあちらこちらに「お地蔵さん」がおられ、お守りいただいていると感謝しています。

針江地域では、湧水を利用して、毎日朝には顔を洗い、食事の支度、食事後の洗い物、お風呂、洗濯などされている家も多いようです。当たり前のようにも感じる水は、無ければ生活が出来ない大切な水です。

平成29年の水辺景観まちづくり協議会主催の地域座談会に山川さんに誘われ何気なく参加しました。その中で『カバタには「水の神様」がおられる』と話されていたことを記憶しています。「水の神様」がカバタを、家庭を、地域を守っていただいていると思えました。本当に「水の神様」にも感謝です。

ただ、小学生の頃から考えると川の水量が少なくなっていて、湧水の量も減ってきているようにも感じますし、魚やザリガニ等の生き物も少なくなっています。今や水も買って飲む時代、これまで受け継がれてきた水の文化、暮らしの保存・継承に地域の皆さんとも力を合わせ取り組んでいきたいと思っています。

